

冊子の見方

本冊子は、次の2つの章から構成されています。

第Ⅰ章 「主体的・対話的で深い学び」にするための授業づくりの基本

第Ⅱ章 各教科等の授業づくりの基本

第Ⅰ章 「主体的・対話的で深い学び」にするための授業づくりの基本

ここでは、各教科等の学習における目標の達成に向け、「主体的・対話的で深い学び」にするための授業づくりに必要な内容を次の項目で示し、その解説をしました。

1 児童生徒にとっての単元及び題材の課題を設定する。

2 単元及び題材の課題の解決（目標への到達）に向け、各単位時間をつなげる。

3 多様な考え方に触れ、自分の学びを広げたり深めたりできるような対話的な場面をつくる。

4 主体的に学び、学んだことを次の学習に活用できるように、各単位時間での「めあて」の設定と「振り返り」の場面をつくる。

第Ⅱ章 各教科等の授業づくりの基本

ここでは、第Ⅰ章の内容に基づき、各教科等の1 単元及び題材のつくり方、2 単位時間のつくり方、また、カリキュラム・マネジメントの一つとして、教科横断的な視点からの学習指導の充実について、3～6の内容を共通事項として示しました。

〈表紙〉

○各教科等における学習の概要、特有の用語を解説しました。

〈1 単元及び題材のつくり方〉

○各教科等の一般的な問題解決の過程や各過程における児童生徒の学習活動を順序立てて示しました。

○吹き出しには、単元や題材をつくる際の「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善のポイントを各教科等の特質を考慮して示しました。

〈2 単位時間のつくり方〉

○問題解決の「つかむ」、「追究(追求)する」、「まとめる」過程ごとの授業づくりを示しました。

※過程の表記は、各教科等で異なります。

○授業の基本的な流れの中における教師の手立てを「●青文字」として順序立てて示しました。

○「指導のポイント」には、教師の手立ての詳細を解説しました。

〈3 学習過程と教科書との関連〉

「教科書を教える」のではなく「教科書で教える」ということ、また、教科書は教育活動の中心的な教材として重要な役割を担うということから、各教科における教科書の構成の特徴、及び、各教科等の特質を踏まえた教科書の効果的な活用場面や使用方法を例示しました。

※総合的な学習の時間、学級活動には、この記載はありません。

〈4 学習活動を行う場合に生じる困難さに応じた指導の工夫〉

学習指導要領では、各教科等共通して、学習活動を行う場合に生じる困難さに応じた指導内容や指導方法の工夫を計画的、組織的に行うと明記してあることから、学習に対しての「困難さ」の程度や種類に応じた「指導の工夫」を例示しました。個に応じた様々な手立てを検討し、指導に生かすことは、学習状況を評価するにあたり一人一人をきめ細かに見取ることにもつながります。

〈5 情報活用能力の育成〉

情報活用能力が学習の基盤となる資質・能力として明確に位置付けられ、教科横断的な視点から教育課程の編成を図ることが求められることから、各教科等の特質に応じて扱われる情報と何かを明示し、それが各学習過程の中でどのように活用されるかということについて、「問題解決における情報活用」を中心に「情報の基本的操作」、「情報モラル・セキュリティ」などの内容を例示しました。

〈6 地域の人材や物的資源の活用〉

「社会に開かれた教育課程」の一つとして、教育課程を介して学校と地域がつながり、学校における教育活動の質の向上を図ること、また、「キャリア教育」の充実を図る視点として、児童生徒が実社会で活躍する人たちと関わることを重視するということから、各教科等で活用できる県内の関係機関等や団体を紹介し、教育課程の編成に生かせるようにしました。